最上義光所用 黒糸威二枚胴具足

Nimai-Do (two-piece cuirass) Armor by MOGAMI YOSHIAKI

最上義光の甲冑は、山形市最上義光歴史館所蔵の

「三十八間総覆輪筋兜」のみで鎧は残っていません。

義光の曾孫の最上義智が貞享元年(1648)に

江戸幕府へ提出した『最上家伝覚書』に、

「一、景勝と合戦之刻、自信長賜候桶革胴之甲冑を

帯シ、出羽守相働候刻、鉄炮玉甲の真中に中り、

筋金相窪ミ申候」と記述されています。

慶長五年(1600)の長谷堂合戦で

この兜によって命拾いしたが、

これは織田信長より贈られた桶革胴の

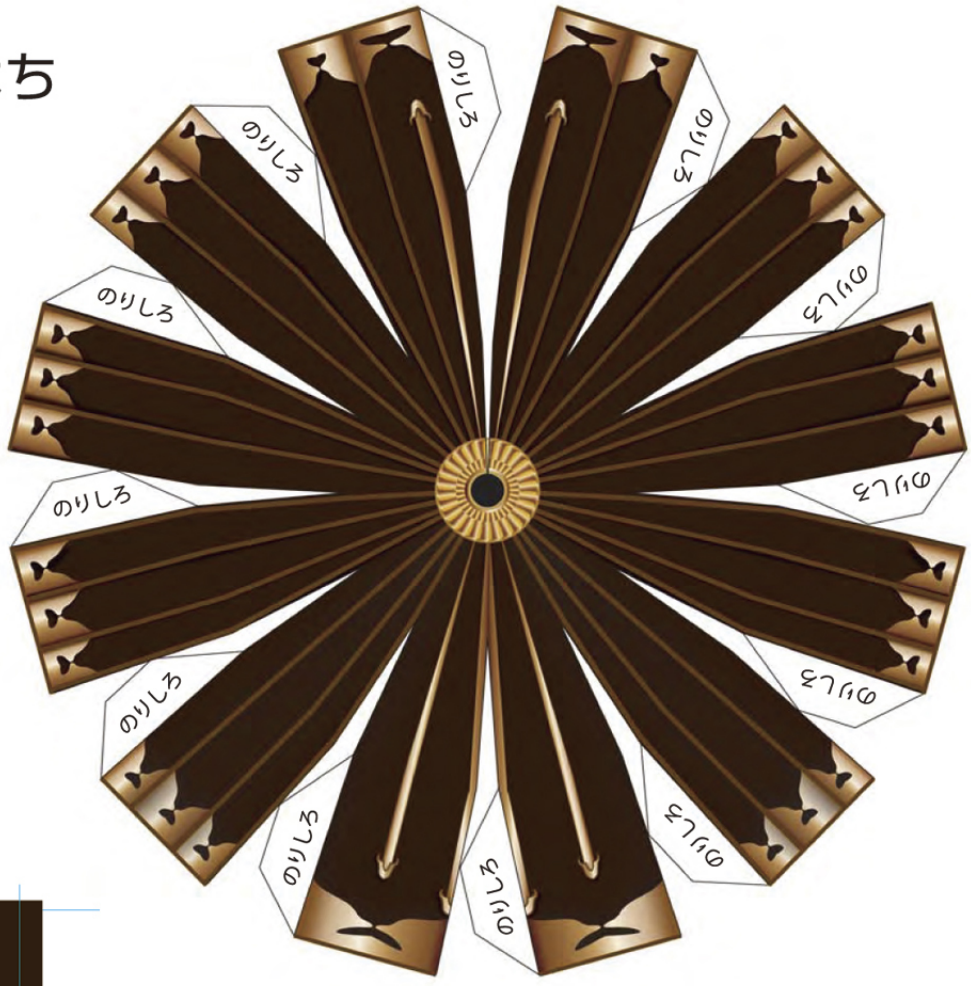
甲冑であったというものです。

これらを元にして当時の甲冑を

想像復元したものが、このペーパークラフトです。

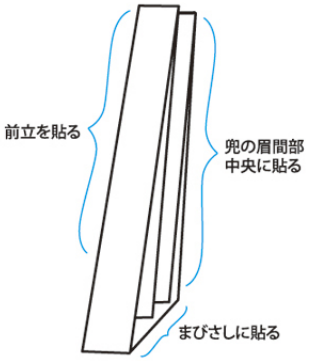
資料提供・デザイン協力／最上義光歴史館　　企画・製作／㈱キムラ、精英堂印刷㈱

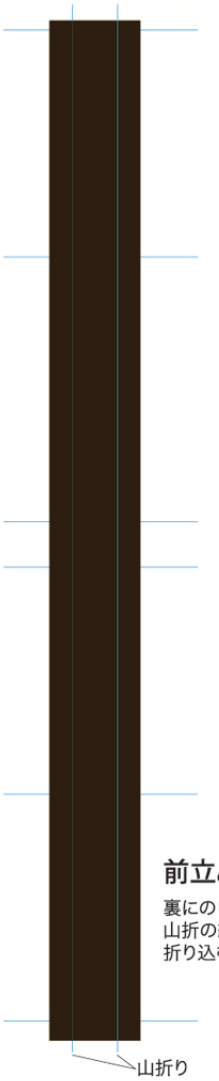
はち



兜の紐

前立と兜の接合部の折り方

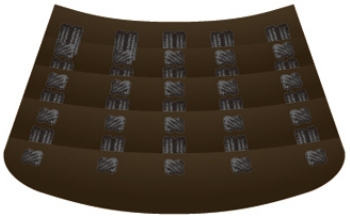




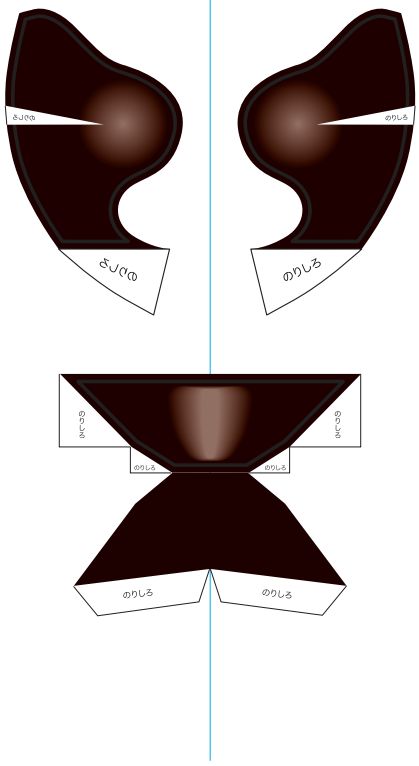
前立と兜の接合部

裏にのりをつけ
山折の線から、
折り込む。

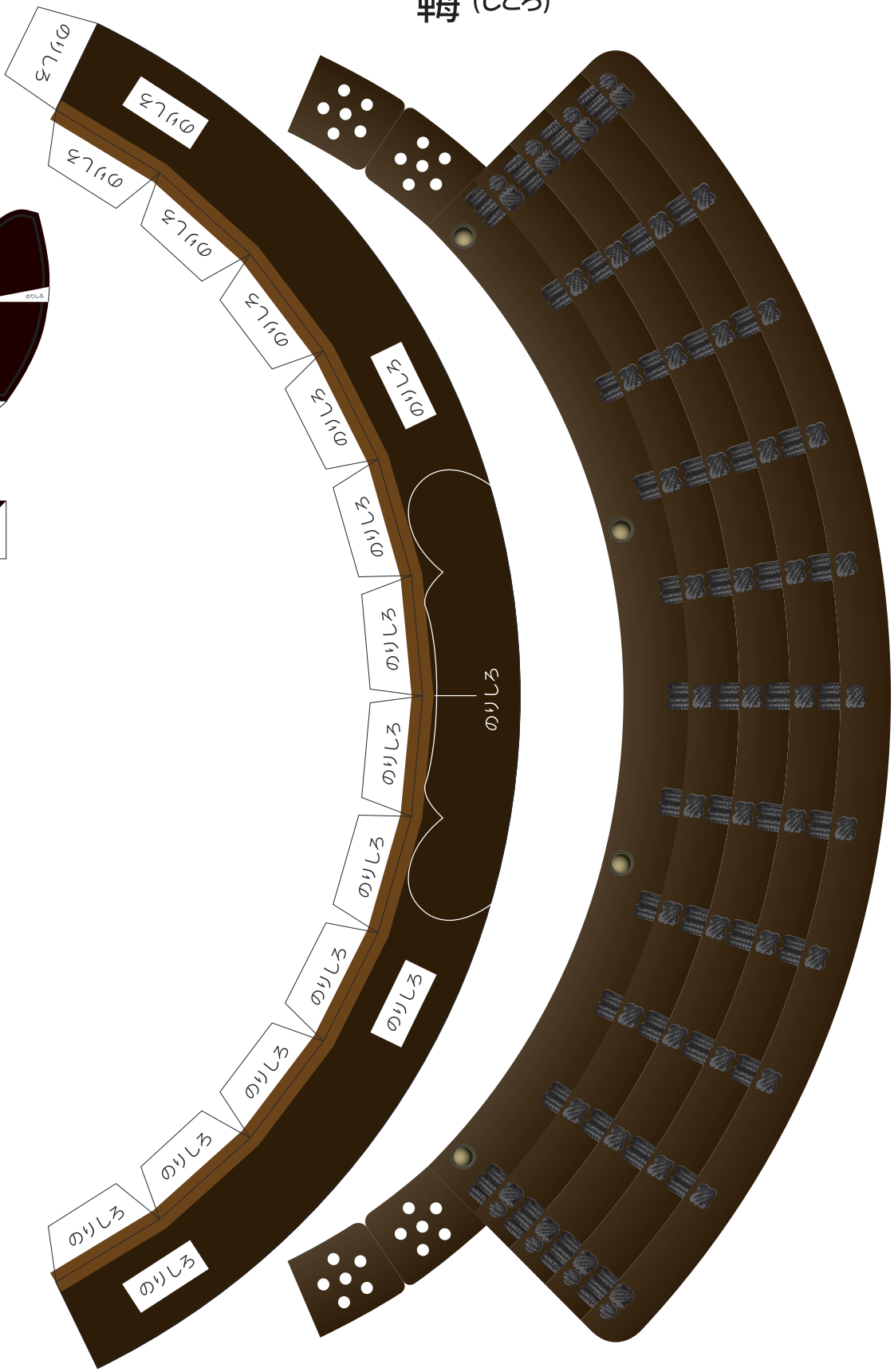
咽喉輪



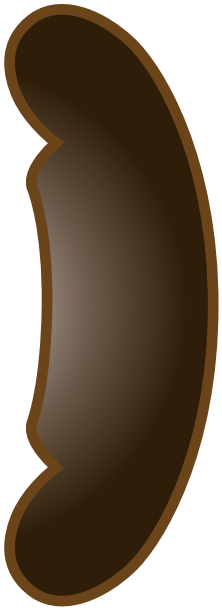
面頬


さんぞく
のりしろ
さんぞく
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ

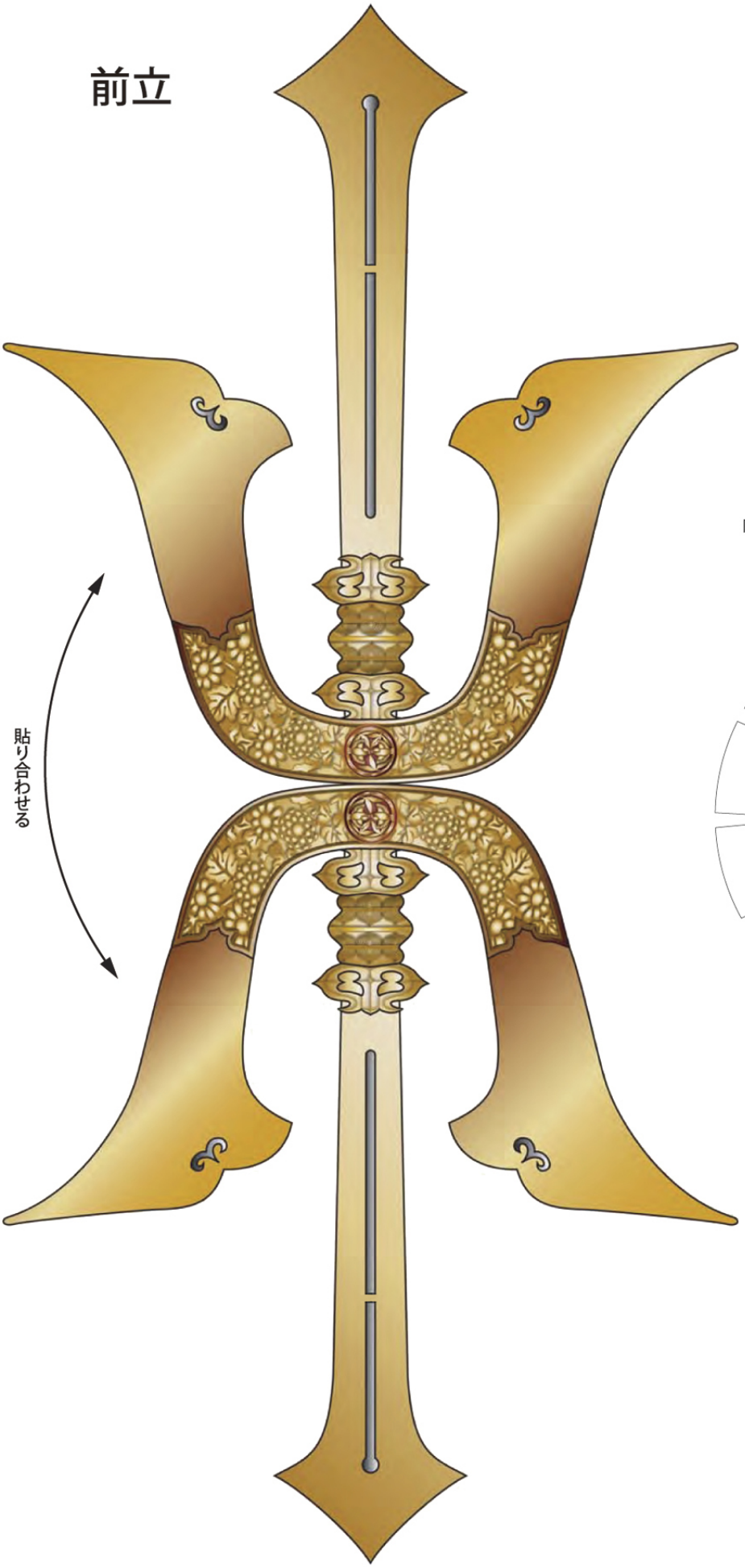
鞠 (しころ)

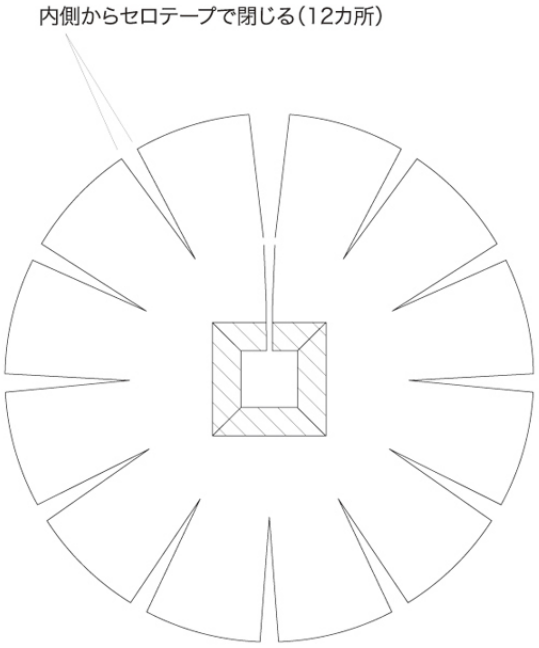

のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ

まびさし



前立

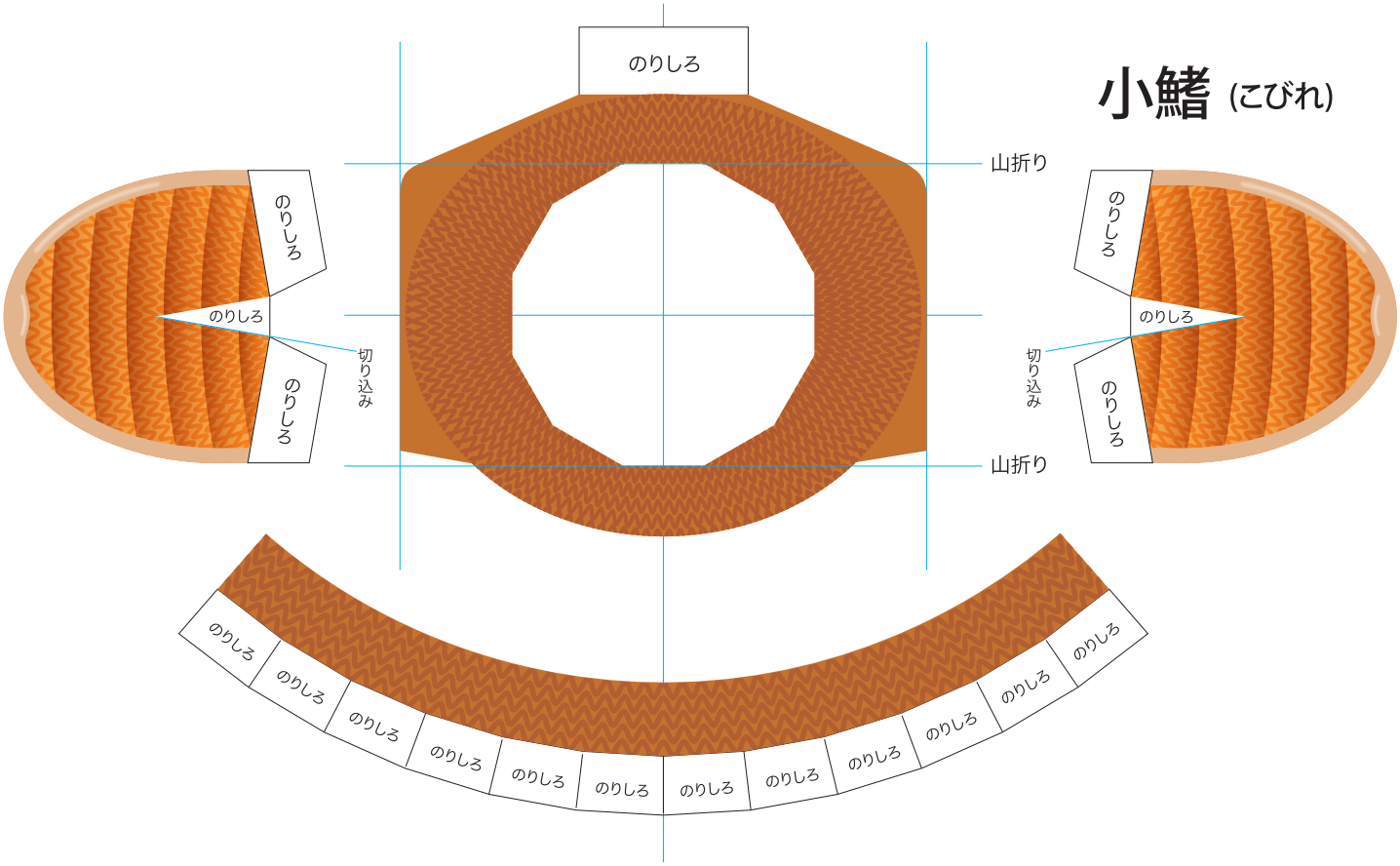




兜を乗せる台として使用する。

斜線部分の内側にのりを付け、
支柱の一番上の内側に貼る.

小鰭 (こびれ)


のりしろ
山折り
のりしろ
のりしろ
のりしろ
切り込み
のりしろ
のりしろ
のりしろ
切り込み
山折り
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ

胴 (前)

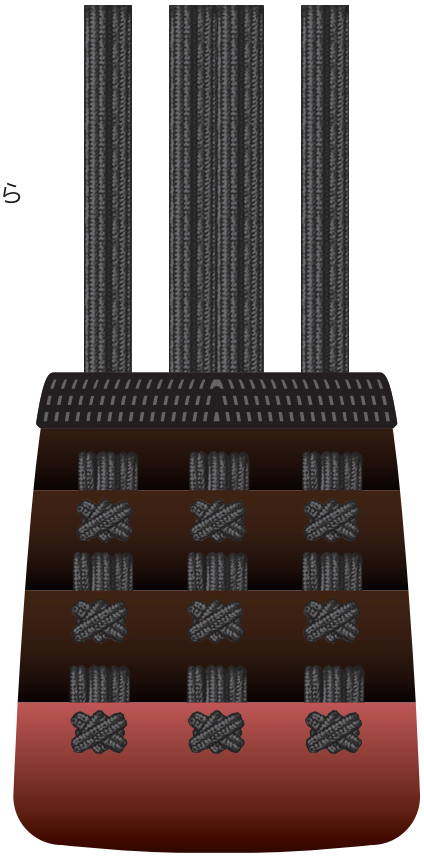
切り込み
のりしろ

腰紐

胴(後)

草摺(くさずり)

長さを調整しながら
胴の内側に貼る。



前

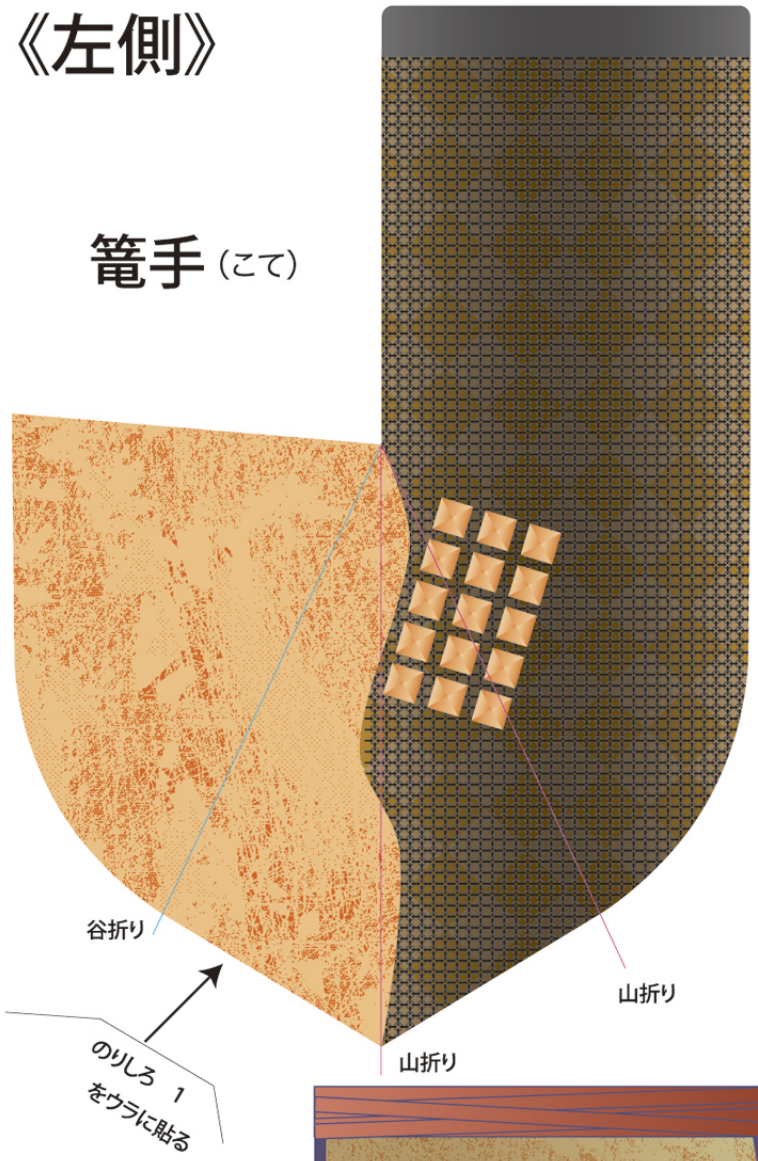
後ろ

左横

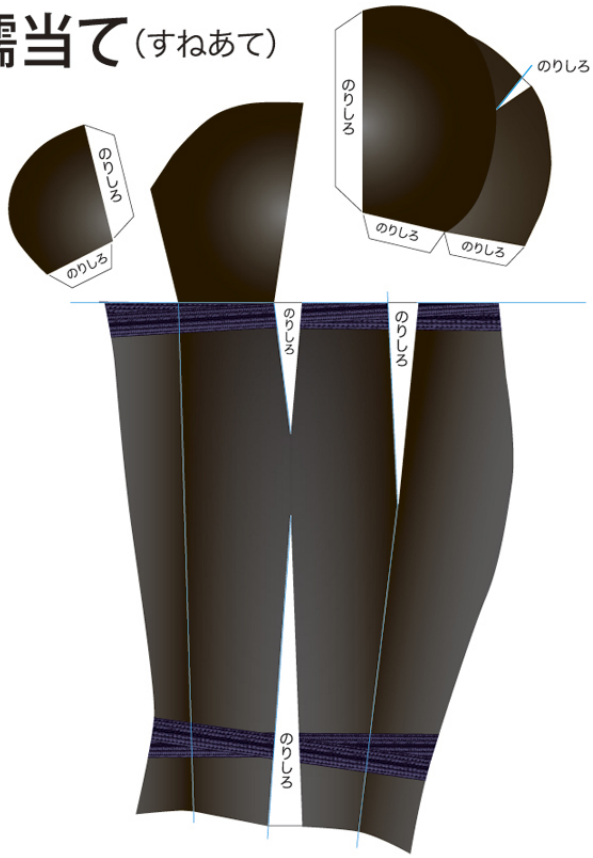
右横

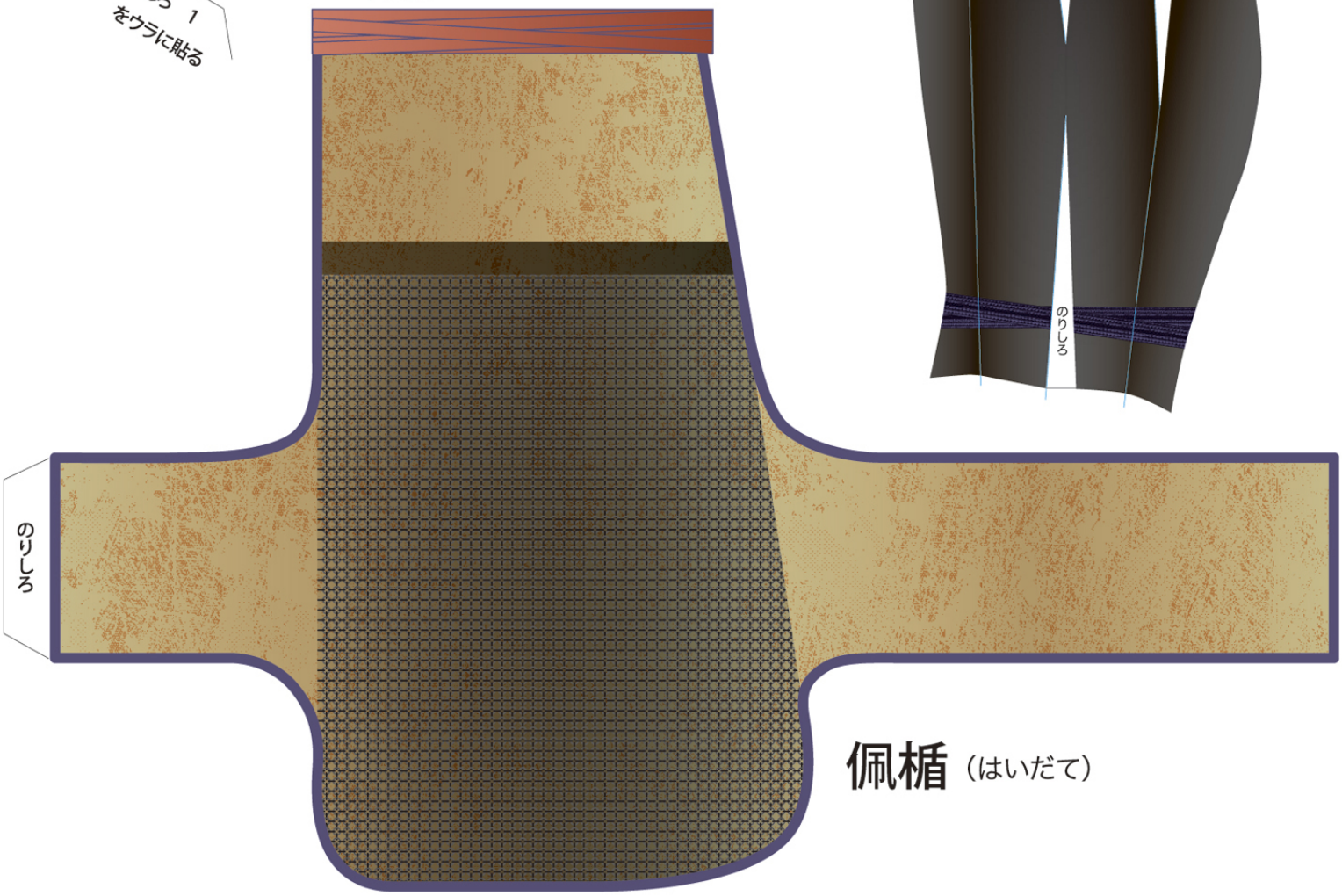
《左側》

篭手（こて）



臑当て（すねあて）

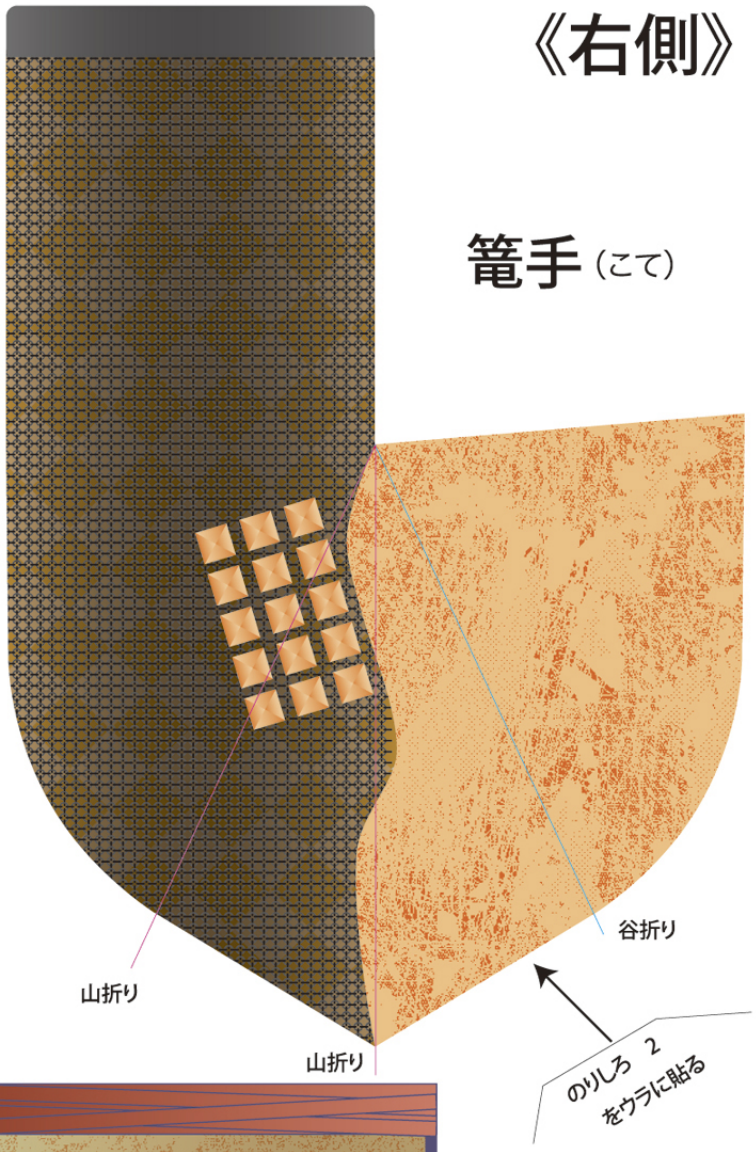




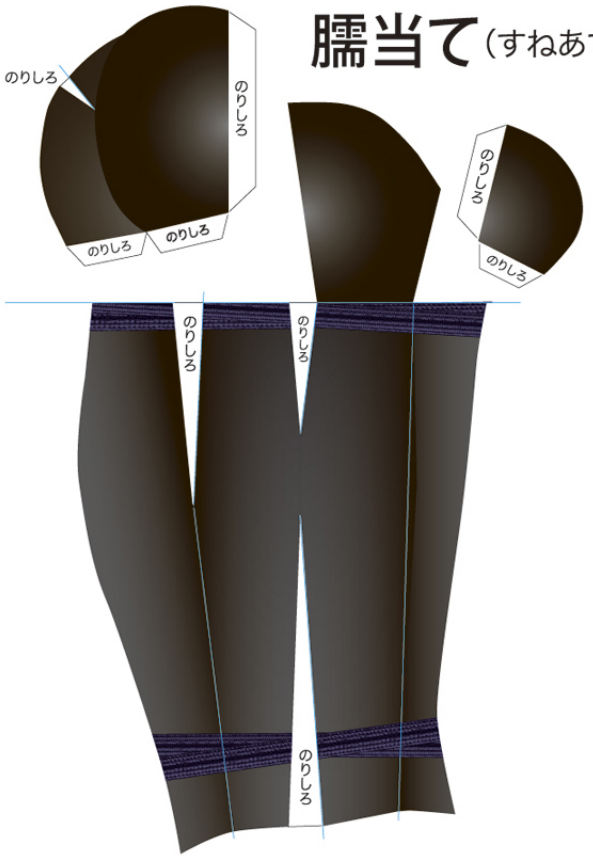
佩楯（はいだて）

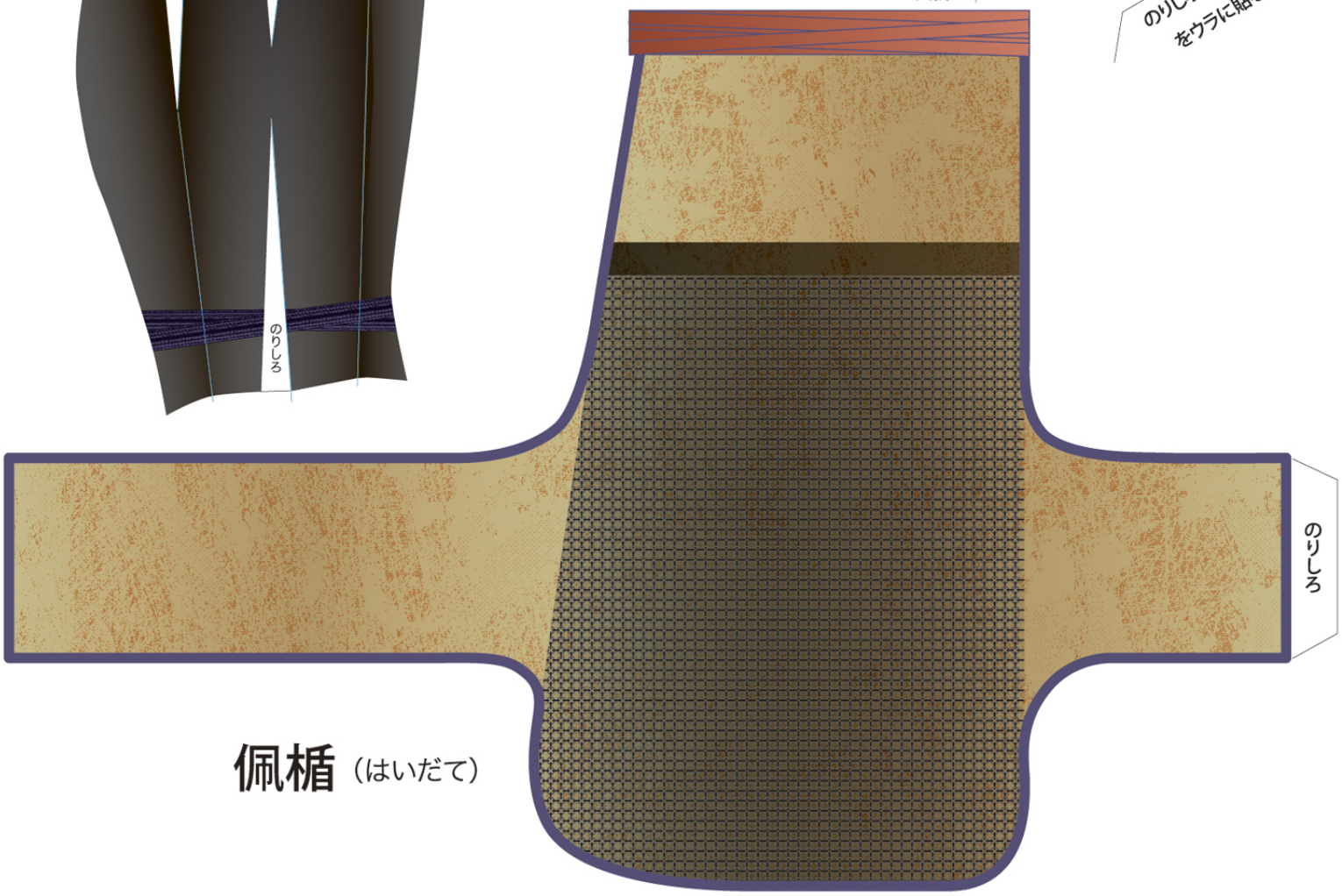
《右側》

篭手（こて）



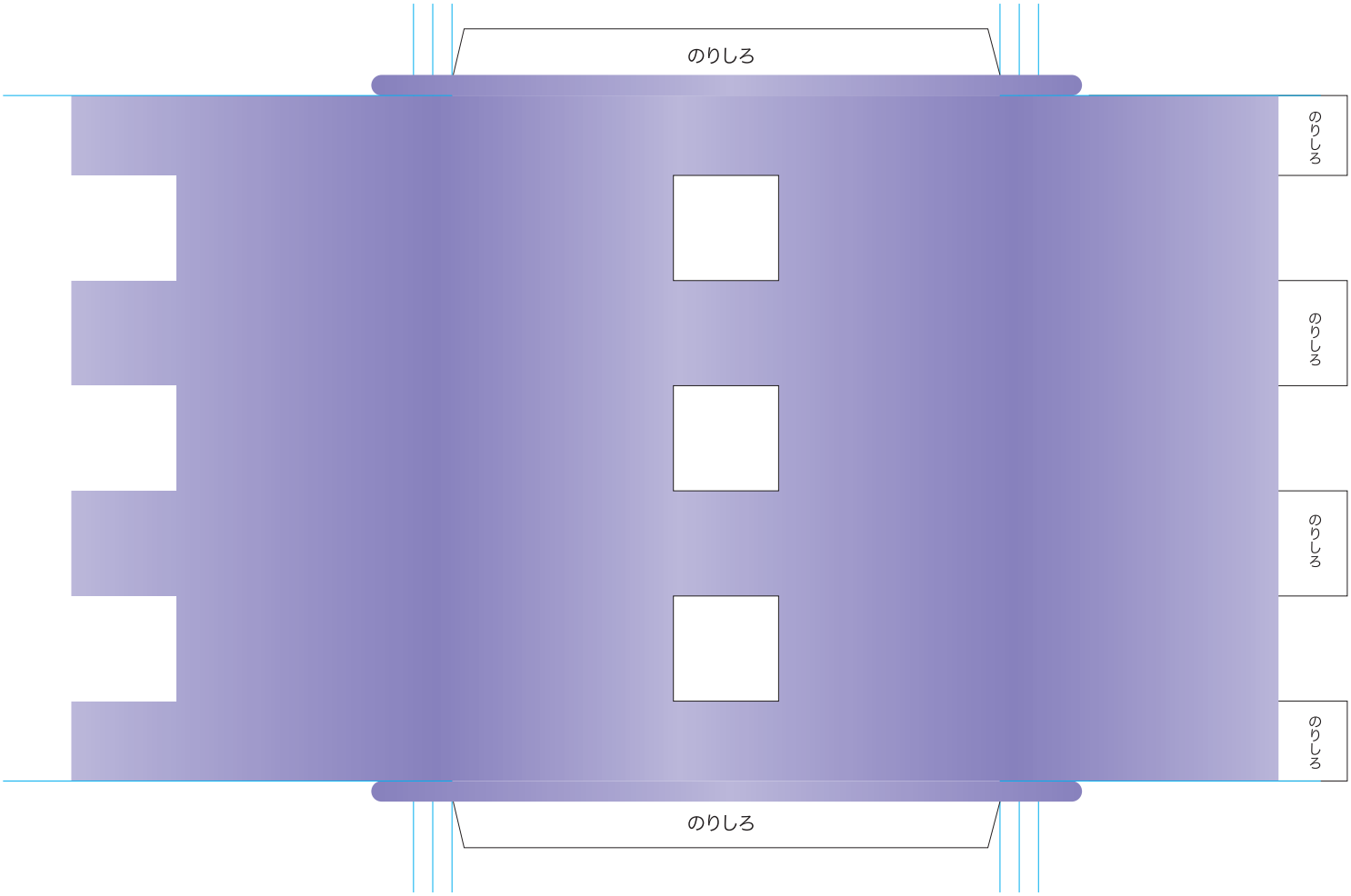
臑当て（すねあて）

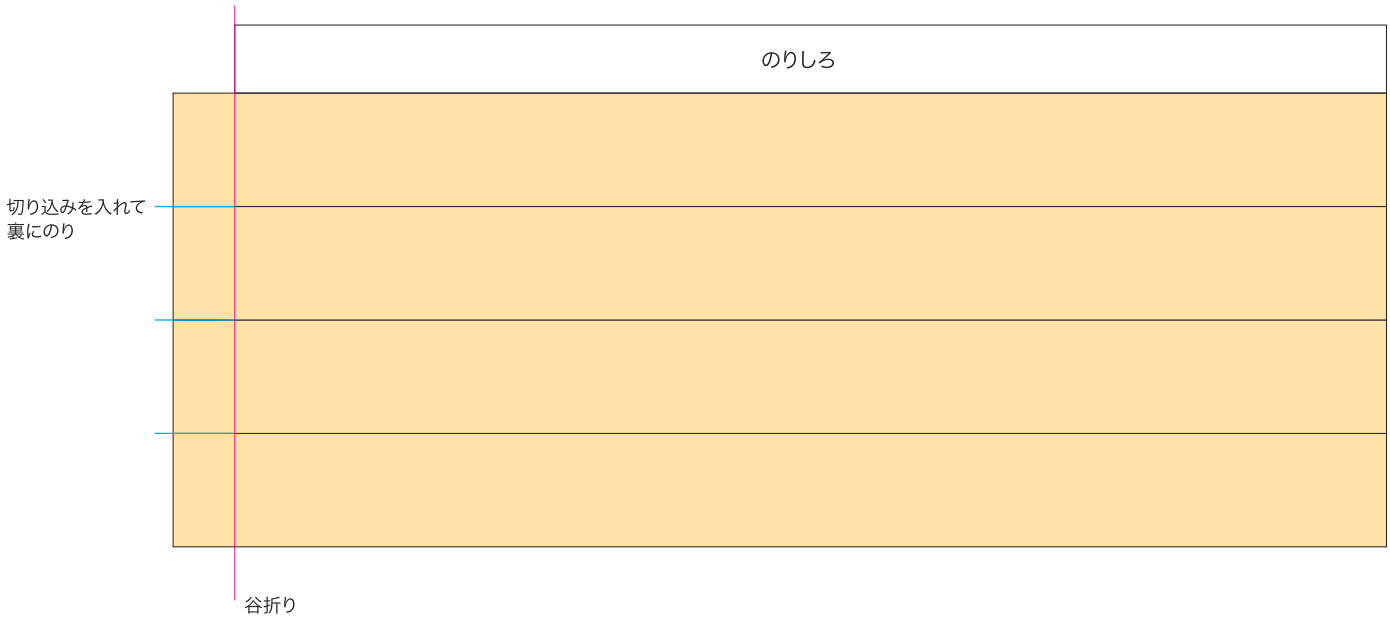




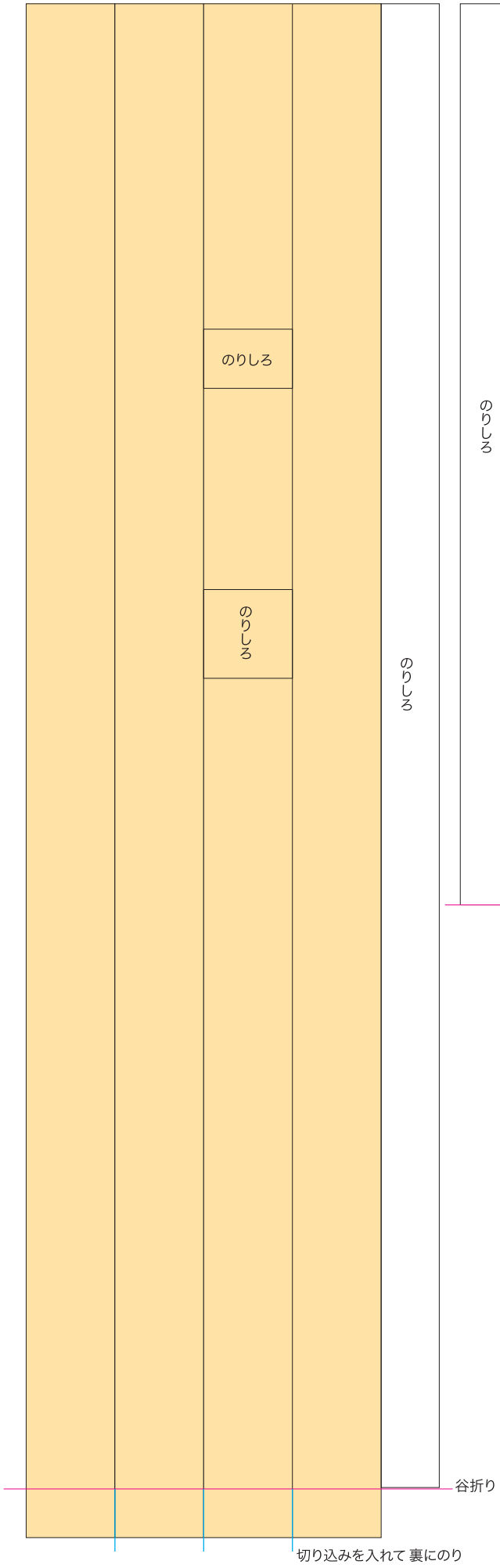
佩楯（はいだて）

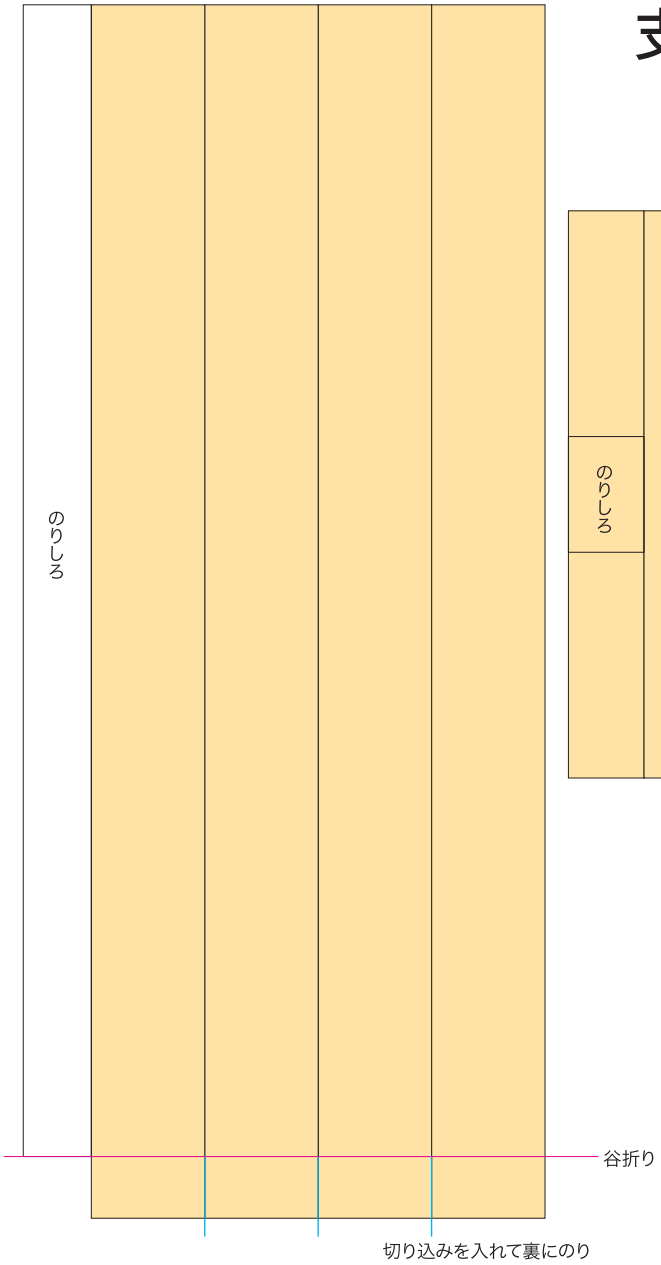
座布団　胴の下に敷く

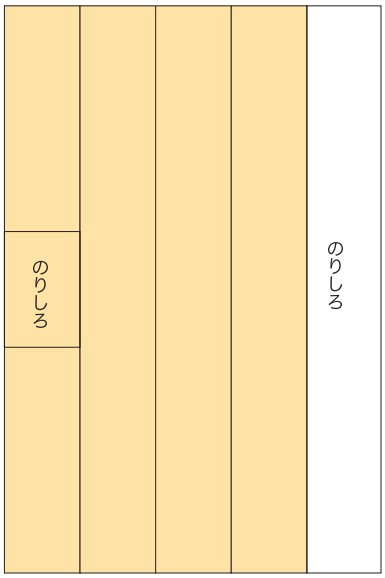


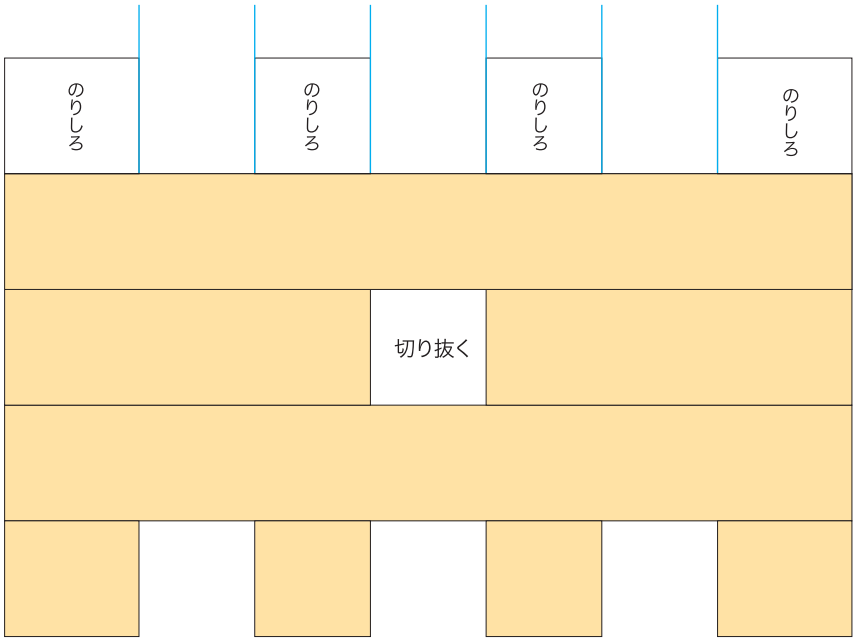


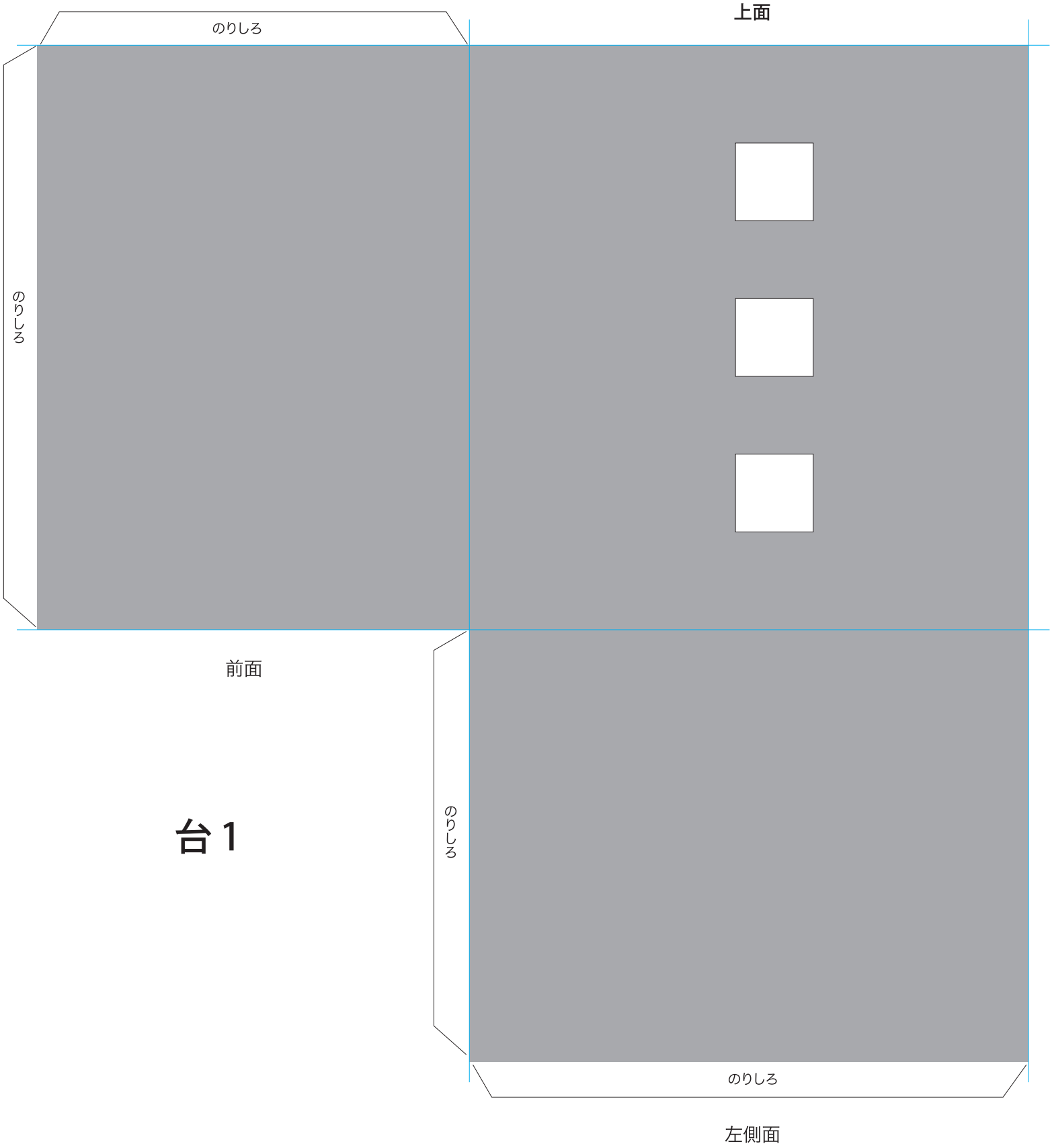
支柱


のりしろ
のりしろ
のりしろ
谷折り
切り込みを入れて 裏にのり


のりしろ
谷折り
切り込みを入れて裏にのり


のりしろ
のりしろ

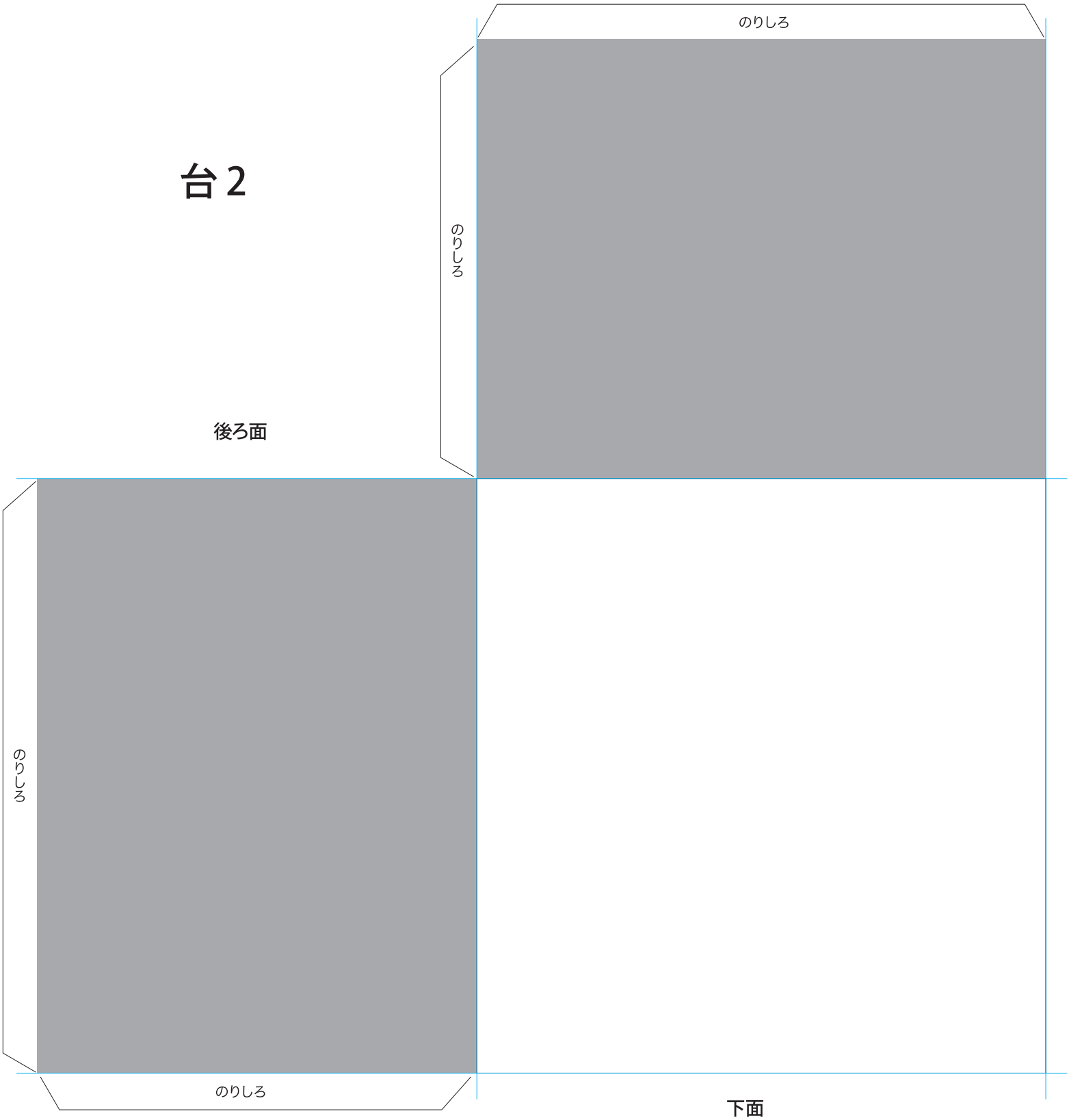

のりしろ
のりしろ
のりしろ
のりしろ
切り抜く



台 1

台 2

右側面



後ろ面

下面

内部の作り方（兜と胴を外した状態）

鉄指揮棒を振るって戦う最上義光

Mogami Yoshiaki fighting with a long commander's baton

長谷堂合戦図屏風（最上義光歴史館所蔵模本）

Folding screen of the battle of Hasedo (replica)

鉄指揮棒

Iron commander's baton

「清和天皇末葉山形出羽守有髪僧義光」

"Descendent of the Seiwa Emperor, Lord of the Yamagata City, Governor of Dewa Province, Haired Monk Yoshiaki" is inscribed on the back of the baton.

鉄指揮棒には
「清和天皇末葉山形出羽守有髪僧義光」と
刻まれています。
(清和天皇の子孫であり、山形城主の出羽の
守である、仏門に帰依した義光)の意

一周分貼り合わせて
残った部分をカットする